

おかえりなさい!

特集

地域はみなさんを待っています。 定年世代の地域デビュー支援に 新しい動き

「2007年問題」と騒がれて2年余り、定年延長や再雇用等でリタイアとはいかなかった団塊世代の方々も、そろそろ地域へ戻ってくる時期となりました。

ほのぼのエリア（小平市・東久留米市・東村山市・清瀬市・西東京市）の人口に団塊世代（昭和22年〜26年生まれ）の占める比率は各市とも約7%から8%。平成20年度の統計で見ると、人口にしてこのエリアで5万2千人余になります。リタイア後の地域デビューを支援する、受け皿となるような地域の市民団体の活動も盛んになってきました。

小平市では福祉会館で「団塊世代ふれあいサロン」が11月から3月まで、8回にわたり開催されています。

また東久留米市では「団塊くるねっ」と（東久留米の団塊世代ネットワーク）主催によるシンポジウムと団塊世代おかえりなさいパーティが11月21日に開かれました。

さらに今年には各市で活動する地域デビュー関連の団体が自分たちの市だけで活動するのではなく、他市の団体とも交流し、情報交換し、輪を広げようと「たま団塊交流会」を立ち上げました。その2回目のイベントが12月19日、「東村山・懇団塊」主催で開催されます（詳しくは3ページに）。これに先立ち、たま団塊交流会の第1回目が10月25日、「秋の柳瀬川回廊散策」として実施されました。

柳瀬川回廊合同 ウォーキングに参 加してみました

たま団塊交流会のイベントとして、まずは、「清瀬市民活動センター」の主催で柳瀬川回廊散策が実施されました。この日は朝からの雨にもかかわらず、9時、西武池袋線秋津駅前には45名が集合。「東村山懇団塊」、小平の「とまり木」、団塊くるねっ、世話役の清瀬市民活動センターのメンバーに加えて、一般の方々も。中には本誌の情報欄を見て、駆けつけたという女性読者の方もいてうれ



上) 清流がカワニナを育てています。

下) 雨にもマケズ、シャッターチャンス。



しい限りでした。

川づくり・清瀬の会の宮澤とよ美さんがガイド役で、2班に分かれてスタート。秋津駅北口から空堀川に面した、カタクリの自生地である中里緑地保全地域の雑木林を通り、せせらぎ公園、中里地域市民センター、整備された柳瀬川回廊を歩き、金山調節池を巡る約6キロのコース。親水散策ゾーンのせせらぎ公園は野草はもちろん、ジャコウアゲハやゴイシジミなどの珍しい蝶やホタルも生息するエリア。自然保護ゾーンでホタルの幼虫の餌になるカワニナを育てている大槻義顯さんが説明してくださいました。6月になるとホタルが舞い、ホタル鑑賞の夕べが開かれます。それにしても宮澤さんや大槻さんなど、清瀬の自然を守る市民の尽力が美しい環境を保全しているのだと、歩きながら思い知らされました。



ようやく雨も上がり、参加者の記念撮影

ゆるやかに流れる柳瀬川、周りに高い建物がないので、余計に広がりを感じられます。雨のせいか、土曜日というのに人影もまばらでした。けれども金山調節池に着くと、池の周りにズラリと人々が並んでいてびっくり。防水カバーをかけたカメラの前に立つ、雨着を着たカメラ愛好家。カワセミがやってくるシャッターチャンスを朝早くから狙っているのです。ここは野鳥の宝庫。近くにカワセミの営巣地もあるそうです。キョセケヤキロードギャラリーの彫刻を鑑賞しながら歩き、終点の市民活動センターに着くと、清瀬市民活動の会理事長、土金百合子さんお手製のゆでまんじゅうがみなさんに振舞われました。

「清瀬はこれまで病院の街というイメージだったが、豊かな自然にびっくりしました」「今までは近くて遠い街でしたが、よくブルランニング



上)温もりある手づくり品が並ぶ雑貨市下)左から金子さん、木下さん、嶋田さん



「PRに努めました。会場を提供し、人集めをやるだけの催しではなく、自己資金のない主婦や定年世代に、自分の作品を販売する機会や人々との交流を生みだす、街活性化のサポートを担う企画です。元コンピュータ関連会社にいた嶋田節男さんは、雑貨市の来場者や出店者のアン

され整備された自然に接して、身近になりました」と近場の新発見を楽しんだ参加者のみなさん。今後も交
東村山懇団塊は3年前に開催された東村山市の「団塊世代シンポジウム」企画・運営の募集に集まったメンバーでスタート。同時代を生きてきた者同士の共感を大切にしながら、団塊世代の生き方や地域デビューを進めている市民グループです。
現在のメンバーは昭和19年から28年生まれまでの12名。うち女性4名。これまで地元を知ろうと「東村山たんけん隊」や団塊世代向けの講座やフリートークなどを企画・運営してきました。中でも力を入れているのが、市民起業支援プロジェクト「東

流会として、近隣の見どころを歩く企画が実施されそうです。定年世代のみなさんはまずはこのような行事
村山手づくり小物雑貨市」です。3回目の今年はオープンしたばかりの東村山駅に直結したサンパルネで10月17、18日の2日間開催。手づくりの小物やアクセサリ、陶器など出店応募者が26件の店を出し、即売する雑貨市ですが、入場者は2日間で延べ1594人。川越や新宿など市外からの客も3割いて、メンバーの予想をはるかに超える、大盛況のイベントになりました。
出店料は1日4千円（2日間連続だと7千円）。会ではこれを資金に職をつくり、チラシを新聞折込み

に参加して、地域と人々を知るきっかけにはいかがですか。
「今後はできれば春、秋の2回開催し、自分たちの活動としてだけでなく、もっと全市的に広げていきたい」と金子茂生さん。
12月に主催するたま団塊交流会イベントは、近隣で活動する団体が一同に会し、情報交換と地域デビューのきっかけを作る場。ぜひ参加して、本音トークしてみませんか。

東村山懇団塊主催の「東村山手づくり小物雑貨市」は大盛況

第2回地域デビュー関連イベント
交流会を兼ねた各市団体代表によるパネルディスカッション
12月19日(土) 14時30分
17時から懇親会
会場 東村山駅前「サンパルネ」コンベンションホール
会費 千円
(問) 080(5076)3769
木田

特集

輝く「個」へ回帰するために… 『多摩セカンドライフ大満足事典』を発行しました



『多摩セカンドライフ大満足事典』
発行：(財)東京市町村自治調査会
多摩交流センター
編集：東京 TAMA タウン誌会
B5判 164 ページ
定価：1200円(税込)
○取扱い書店等につきましては
本誌までお問い合わせください。
また直接のご注文もお受けいた
します。p.20の電話、FAX、
メールアドレスまで。

前述の橋詰さんや地域デビュー関連の団体なども掲載している、定年世代のバイブルとなるような本が発行されました。本誌も所属している東京TAMAタウン誌会の編集による『多摩セカンドライフ大満足事典』。学生運動、会社人間…そんな塊で見られてきた団塊世代が、定年後は個に立ち返り、自分らしい生き方を再構築できる時でもあります。この本は起業、地域貢献、趣味、生涯学習など多種多様な選択肢に対応できるヒントがいっぱい。多摩地域の人々の事例、団体、サービスマ機関、先駆的な市の取組み、そして30市町村のお役立ちデータなど詳しい情報が満載の本です。

本誌ではほのぼのエリアの情報ほか、妻の立場からのセカンドライフの本音を聞くべく、ほぼ団塊世代の8人の女性取材。夫が定年前後という方々でしたが、みなさん、パワフルでしなやかで輝いている方たちばかりでした。妻であり、母であり、親や孫の面倒をみる立場にあり、そ

「団塊世代ふれあいサロン」はサロン形式の連続講座



「団塊世代ふれあいサロン」は「NPO法人ふれあいアカデミー」とこだいらボランティアセンターとの主催による講座で、11月から3月まで8回にわたり開催。地域との結びつき、就業、生きがい、自己実現などをテーマにその道のスペシャリストの話を聴き、その後サロン風にお茶を飲みながら、ざっくばらんに語り合う形式。23の上で福祉やコミュニケーション、趣味にボランティアに励み、しっかりと自分の生き方を持っています。だから夫とのバランスも大切に考えることができるのでしょ。定年後は夫が家、妻が外という逆の形も多くなるのではと思いました。

本の中で、作家の西田小夜子さんが男と女の「文化力」について書いています。妻は夫が会社人間でいた間に「文化力」を身につけた。文化

名の申し込みがあり、第1回目は11月14日に小平市福祉会館で開かれました。

参加者は最近定年退職した人、もうすぐ定年の人。「やりたいことを探している」「地域で役に立てることはないか」など、これからの生き方を真剣に考えている人ばかり。講師は55歳で早期退職し、介護タクシーの会社を創業した橋詰登志夫さん。創業時の苦労や介護の世界のやりがいなど、経験に基づく話には説得力があり、「進む勇気があれば必ずできる」という言葉にパワーを戴きました。これからのサロンの動きに注目です。

(問) 042(346) 1424
こだいらボランティアセンター

力とは「脳が喜び心地よく熱中できることに、お金を惜しまず自分を大切にすること」。まさしく8人の女性たちは文化力ある方々。定年後は妻に学べ、でしょうか。

けれども西田さんによると、最近講演会に男性が増え、男性の文化力も向上しているそうです。たま団塊交流会もすべて男性がリーダーです。だから、これからの地域活動にも新しい波が起きそうです。